

リニア中央新幹線開通に係る調査
報 告 書

第2版

飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所
信金中央金庫

リニア中央新幹線開通に係る調査 報 告 書

飯田信用金庫
特非)しんきん南信州地域研究所
信金中央金庫

ご挨拶

皆様には平素より格別のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

飯田信用金庫は、大正14年に有限責任飯田町信用組合として創立以来、「地域社会の発展に貢献する」という経営基本理念のもと、「真に存在感のある金融機関」を目指して業務に邁進してまいりましたが、おかげさまでこの地域とともに順調に推移し、平成27年9月1日、創立90周年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆様の永年にわたる温かいご支援とご愛顧の賜物と心より感謝申し上げます。

私どもでは、創立90周年を機に、信金中央金庫様、特定非営利活動法人しんきん南信州地域研究所と連携してリニア時代を迎える飯田下伊那地域に関する調査活動を行って参りましたが、このたび「リニア中央新幹線開通に係る調査報告書」として公表させていただき運びとなりました。

本報告書では、リニア中央新幹線開通にかかるアンケート調査、全国各地の新幹線沿線都市の現地調査や行政機関、関連事業団体等に対する聴き取り調査などを通じて読み取ることができる事項をまとめております。また、これを踏まえ、地域トップシェアの金融機関として当金庫からの地域に対する提案ならびに当金庫が自ら取り組む具体的施策を明らかにしております。

リニア中央新幹線開通を11年後に控え、三遠南信自動車道全線開通をほぼ同時期に迎える当地域にとりまして、これからの10年間はこれまでとは比較にならない重みを持つ期間となります。この報告書がたたき台となり当地域の未来に向けて共に議論し、共に行動するきっかけとなれば幸いです。飯田信用金庫は、地域金融機関として明確化した将来像を地域の皆様と共有し、変わり行く地域経済環境へ適切に対応することでその役割を今後とも果たしてまいり所存でございます。

なお、今回の調査を契機として今後もリニア中央新幹線に関わるアンケート調査等各種調査を継続的、定期的実施し、その都度皆さまに報告させていただきます。また、信金中央金庫様との連携を一層深め、リニア中央新幹線沿線の各信用金庫との連携を進めてまいります。

末筆となりますが、本報告書を作成するにあたり、多くの皆さまにご協力いただきましたことに御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。



飯田信用金庫

理事長 森山和幸

ご挨拶

戦後、日本の総人口は増加を続け、1967年には初めて1億人を超えましたが、2008年の1億2,808万人をピークに減少に転じています。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、このままでは2048年に9,913万人と1億人を割り込み、2060年には8,674万人まで減少すると予測されています。人口の推移をより長期的に見ると、明治時代後半の1900年頃から100年をかけて増えてきたものが、今後100年のうちに再び同じ水準に戻ることであり、放置しておく、これまでの歴史を振り返っても類を見ない水準の人口減少を経験することになります。

こうした危機意識のもと、政府では2015年を地方創生元年とし、人口減少に歯止めをかけ2060年に1億人程度の人口を確保することを目標に、さまざまな取組みを進めています。各地方公共団体においても国の基本方針の下、総合戦略を立案し、雇用機会の増加、出生率の向上、住環境の整備等に取り組むことで、人口減少を抑制し、地域経済の活性化を実現しようとしています。

飯伊地域においても例外ではなく、地域の特性を活かした取組みを講じることで人やモノ等の循環を高めようとしています。特に人の流れを大きく変えることが期待されているのが、2027年に東京（品川）―名古屋間で開通予定のリニア中央新幹線です。リニア中央新幹線が通過する神奈川県、山梨県、長野県、岐阜県に各1駅開設されることとなっていますが、長野県駅は飯田市上郷飯沼地区に開設されることになり、飯伊地域では、品川まで45分から1時間程度での移動が可能になります。これまでは4時間30分から5時間程度要していたので、プラスマイナス含めて時間短縮効果は計り知れないものがあるはずです。

飯田信用金庫では、12年先とはいえ、こうした大きな環境変化を地域のチャンスとし、プラスの時間短縮効果を大きなものとするべく、地域内外に対してアンケート調査等を行い、地域への提言とともに、今後信用金庫が地域発展のために取り組むことを、本報告書としてとりまとめました。微力ではありますが、信金中央金庫は報告書作成の支援をいたしました。飯田信用金庫では、リニア中央新幹線開通の2027年だけではなく、来たる2025年の創立100周年を睨み、本書に記載された取組みを着実に進められることと思いますが、私共も精一杯の支援・協力をするので、飯伊地域の発展に貢献できればと考えています。

最後に、本報告書の発刊にあたりご協力いただいた多数の皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。



信金中央金庫
地域・中小企業研究所

所長 松崎英一

目 次

はじめに	8
本 編	
I. 黎明となるか 飯伊地域	12
1. 飯伊地域リニア中央新幹線の概要	12
(1) リニア中央新幹線 構想から現実へ	12
(2) リニア中央新幹線工事 飯伊地域の状況	16
(ア) リニア本線・駅部等	16
(イ) リニア関連事業の状況	26
(3) リニア中央新幹線建設工事 飯伊地域の現状	30
(ア) リニア長野県駅設置について	30
(イ) 移転対象建物について	31
(ウ) 他のリニア中間駅での駅周辺整備等も同様の状況	32
(4) リニア中央新幹線開通が当地域にもたらす影響	35
(ア) 時間距離の圧倒的短縮	35
(イ) 時間短縮効果が最も大きい長野県駅地域	36
(ウ) 大幅時間距離短縮がもたらす脅威と機会	37
(5) リニア中央新幹線およびリニア関連工事の認知度	37
(6) リニア中央新幹線の経済波及効果	39
～長野県「リニア中央新幹線開業に伴う経済波及効果を中心に～	
(ア) 経済波及効果の概要	39
(イ) 経済効果の範囲	40
(ウ) 直接工事投資額について	41
(エ) リニア利用者による県内消費	41
(オ) 定住人口増への取り組み	42
(7) 本項のまとめ	44
2. 飯伊地域の産業・経済の状況	45
(1) 飯伊地域の人口の状況	45
(ア) 飯伊地域の人口の推移	45
(イ) 飯伊地域・上伊那地域の人口予測	52
(ウ) 飯伊地域の人口まとめ	53
(2) 飯伊地域の経済構造	54
～「外貨獲得」と「経済自立度」～	
(ア) 経済自立度とは	54
(イ) 経済自立度の概念	55
(ウ) 経済自立度引上げを目指して	56
(エ) 経済自立度とリニア中央新幹線との関わり	56
(3) 飯伊地域産業の状況	58
～リニアとの関わりを展望しながら～	
(ア) 飯伊地域民営事業所の概況	58
(イ) 製造業	62

(ウ) 商業	68
(エ) 観光業	76
II. 12年後の開通を控えた飯伊地域の意識と期待	84
～2015年実施アンケート調査から～	
1. 本調査の趣旨	84
2. アンケート調査の結果	85
個人・事業所共通	
3. アンケート調査の結果	110
事業所調査	
4. アンケート結果のまとめ	123
III. リニア中央新幹線開通を迎える視点	124
～その他調査から～	
1. 北陸新幹線各駅の乗降客数に大きな格差	124
(1) 北陸新幹線各駅の利用状況	124
(2) 新幹線駅地域の状況	125
～北陸(長野)新幹線 佐久平駅を中心に～	
(ア) 飯伊地域、上伊那地域、佐久平駅勢圏の比較	125
(イ) 佐久平駅周辺の商業(小売業)の動向	128
(ウ) 佐久平駅の商業集積の状況	129
(エ) 佐久平駅(市)の取り組み	130
(3) 県下各新幹線駅と各駅勢圏の状況	133
(ア) 人口と乗車人数	134
(イ) 事業所数と乗車人数	134
(ウ) 製造品出荷額と乗車人数	134
(エ) 年間商品販売額と乗車人数	135
(オ) 観光延利用人数と乗車人数	135
(カ) 各駅勢圏の比較分析からみえること	135
(4) 「新幹線開業効果」の実態	136
(ア) 新幹線開通前後の地元購買率の比較	136
(イ) 新幹線開通による観光の変化	138
(5) 乗降客数と地域の産業経済	139
2. リニア開業効果は、地域の底力が問われる	140
(1) 新幹線開通前後の状況	140
(ア) 青森県の状況	140
(イ) 福岡県の状況	140

(ウ) その他の新幹線駅地域の状況	141
(2) 地域の底力と新幹線開通効果	141
3. 地域経済の活性化、人口増加のための重要な基盤は、「産業の活性化＝安定した雇用の場の創出」にある	143
(1) 人口増の市町村の条件	143
(2) 長野県内の市町村	144
アンケート調査等で明らかとなった課題および当金庫の今後の対応	145・146
IV. 飯田信用金庫の決意	147
～しんきんからの地域への提言～	
1. 調査から見えてきた課題	147
(1) リニア開通の当地域への影響	147
(2) 人口減少に直面する当地域	147
(3) 産業振興の重要性	147
(4) 地域の暮らし	148
(5) 当地域の資源	148
(6) これからも住み続けるのに魅力的な地域	148
2. 当金庫のこれまでの意見表明	149
3. 今後取り組むべきこと	150
地域への提言	
(1) 提言にあたって	150
(2) リニア時代を迎えるために	151
～「One for All, All for One」～	
4. 飯田信用金庫の具体的施策	154
～これまで取り組んできたこと～	
5. 飯田信用金庫の具体的施策	158
～これから取り組んでいくこと～	
V. 調査報告のまとめ	163
～地域に根ざす金融機関として～	
資料編	165
アンケート調査票原票	

はじめに

平成27年（2015年）は、前年の平成26年10月17日に国土交通大臣が東海旅客鉄道株式会社（以下JR東海）の申請したリニア中央新幹線工事实施計画を認可し、これを受けてJR東海により飯伊地域内の行政単位での事業計画説明会や更に小さい単位での事業説明会が開催されるなど工事の概要が漸く姿を現しつつある中で迎えることとなった。

4月にはJR東海によりリニア予定線の中心線測量や地質工事が開始された。また同じく4月に用地買収に関する業務委託契約が同社と長野県および飯田市との間で締結され、用地買収事業の態勢が確定した。

リニア中央新幹線工事に関連する事業では、リニア長野県駅周辺整備、国道153号線飯田北改良、座光寺スマートインターチェンジとリニア長野県駅を結ぶアクセス道路（後に座光寺上郷道路と命名）の構想が打ち出され、行政による検討会議の開催や地区内での説明会が実施され、対象区域や予定ルートを発表が行われて事業の全貌が見えてきた。

リニア中央新幹線および関連事業の様相が明らかとなるに従い、事業の該当する地区では行政や住民各位が対応にあたっている。また、リニア中央新幹線開通がもたらす「光と影」について、飯伊地域の各方面・分野の方々からそれぞれの立場で問題提起や提案が行われている。リニア中央新幹線開通を見据えての地域づくり、産業づくり、人づくりなどが行政や民間により提唱され、実施が始まったものもみられる。

こうした中で、当飯田信用金庫は平成27年9月1日を以って創立90周年を迎えた。当金庫の次の区切りである創立100周年は平成37年（2025年）であり、平成39年（2027年）に予定されているリニア中央新幹線開通が目前に迫る。その頃には、当地域内には新幹線工事によるリニア関連の施設や構造物が姿を現しており、リニア駅周辺整備や道路改良などにより飯田下伊那の風景は現在と大きく変わっているであろう。何よりも、飯伊地域の「仕事と暮らし」が大きく変わるであろう。

この地域も全国の多くの地域と同様に人口減少と高齢化という事態に直面している。国は「地方創生」により人口減少の歯止めと「東京一極集中」の是正を内容とする人口減少問題の克服と成長力確保を目指し、県・市町村もこれを受けて地方版総合戦略の策定をはじめ対応に取り組んでいる最中である。その中で、当地域はリニア中央新幹線開通という100年単位で一度というべき大きなイベントが控えており、今後地域へ様々な影響をもたらされることが期待されている。当地域の戦略上、他地域にないアドバンテージとなるものと見込められ、またそうしなくてはならないものであろう。

地域の変化への対応に取り組んでいくことは、当金庫にとって必要不可欠の命題であり、今後の地域の産業経済や生活者のニーズの変化を見極め、適切に対応できなければ当金庫の存在理由も危うくなるものと考える。当金庫にとって創立100周年およびリニア中央新幹線開通に向けて今後の十年余は重要な年月となる、との認識である。

信金中央金庫との連携

リニア中央新幹線の計画が進められる中で、当金庫は平成26年7月、総合企画部にリニア対策室を開設し、リニア中央新幹線への対応を進めてきた。リニア対策室は、開設以来リニア関連の情報収集を主な業務として取り組んできたが、リニア中央新幹線開通は当地域の産業・経済をはじめ日々の暮らしに至るまで大きな変化をもたらすことが想起されるため、リニア中央新幹線開通に向けて当地域の現状と変化の方向、併せて対応の方向を調査・研究する必要があるとの結論に至り、平成27年4月リニア中央新幹線開通に係る調査活動を開始した。

調査は、当金庫の総合企画部リニア対策室と営業統括部 経営相談所が中心となって当る。こ

れに当金庫が設立したシンクタンクである 特定非営利活動法人 しんきん南信州地域研究所が協力する。さらに、信用金庫の系統中央機関である信金中央金庫の地域・中小企業研究所 地域活性化支援室のご支援をいただくこととなった。調査期間は平成27年4月から翌28年3月までの間とした。

調査の概要

調査体制は、総合企画部 リニア対策室が全体の調整をとり、金庫の各部署や行政、外部団体等との交渉窓口を務める。営業統括部 経営相談所は、アンケート調査をはじめとする調査の実務を担当するほか、毎月発行の『飯伊地区 産業経済動向』の調査により取得している当地域内の諸データや情報を本調査に反映させていく。

(特非)しんきん南信州地域研究所は、設立以来積み重ねてきた当飯田下伊那地域を対象とする調査・研究で得たデータや調査ノウハウを活かし、本調査でのデータ分析・検討に当たる。

信金中央金庫 地域・中小企業研究所からは、全国の信用金庫と連携して行っている各種の調査・研究で蓄積したデータと全国各地の事例を提供いただくとともに調査の進め方等全般についてアドバイスいただくことにより、本調査の内容を充実させ、客観性を確保する。

調査活動は、平成27年4月以降毎月1回信金中央金庫担当者が参加する打ち合わせを行った。またそれに併せ各方面へのヒヤリングや現地調査を実施した。打ち合わせと打ち合わせの間は、それぞれが分担した作業を進めた。

調査のうちアンケート調査活動は、調査メンバーによる調査票の設計を経て8月に当地域内外の皆さまにアンケート調査票を配布し協力を依頼した。9月以降はアンケート調査の集計・分析・検討作業を行い、その内容をまとめる作業を行った。

アンケート調査と現地調査等の結果は中間報告書としてとりまとめ、平成27年12月14日中間報告会を開催して内容を報告した。中間報告後、調査作業を更に進め、最終報告書の内容取りまとめ作業に取り組み現在に至っている。

本報告書の内容

本報告書は、I章からV章で構成されている。

I章では、当地域におけるリニア中央新幹線工事の概要をまとめるとともに、調査時点での飯田下伊那地域を産業・経済を中心とした状況を概括することとした。10年余後に迎えるリニア中央新幹線開通の頃に本報告書を見たとき、当時の当地域の状況はどのようなものであったかを振り返ることができ、状況を認識してもらえるものとなれば、との意図である。

営業統括部 経営相談所と(特非)しんきん南信州地域研究所は、当飯伊地域について、人口問題や「経済自立度」問題を他に先駆け研究・分析に取り組んできた。それらの取り組みを振り返り、踏まえながら当地域の現状をまとめている。同時に、これはIV章で当金庫が当地域に対する提言を行うための前提条件を整理し、確認するためのものでもある。

II章では実施したアンケート調査の結果を中心に分析・検討を加えて紹介する。アンケート調査には多くの当地域内外の方々にご協力いただき、各自の思いをしっかりと寄せていただいた。アンケートの集計結果や自由記入欄に記載いただいた皆さまからの貴重な「声」について一定の分析は行っているが、アンケート結果そのものを関係各位がそれぞれに受け止めていただき、今後の各方面での議論・検討の上で参考になれば幸いである。

III章は、アンケート調査と並行して行った各方面へのヒヤリングや現地調査、文献等を基にした分析などにより得られた内容から、いくつかの項目について当地域が今後を考える上で参考とすべきことをまとめている。IV章での当地域に対する提言の前提となるものでもある。

IV章は、「地域への提言」として、I～III章を通じて行った調査・研究から見えてきた課題を

基に当金庫が飯伊地域に対して行う提言を取りまとめる。

提言の内容は、飯伊地域の現状、予想される今後の状況等を踏まえての提言と、その中で当金庫がどのような役割を果たしていくべきかを考え、当金庫の対応策を明らかにする。対応策の内容は、これまで当金庫が取り組んできた諸施策を改めて整理して地域の皆さまにご理解いただくようにした。そして、今後取り組んでいくべきと考える方向やその中での具体策として、現時点でお示しできるものを挙げさせていただいた。

「地域への提言」は文字通り当金庫の地域の各方面の皆さまへの表明であると同時に、当金庫の役職員に対し、創立100周年・リニア中央新幹線開通の時代へ向けた羅針盤とするものでもある。今後私たちは、地域金融機関としてこの提言の内容に沿って目標・計画を持ちながら日々取り組んでいくこととなる。

V章は、本調査のまとめとなっている。

本調査報告書が飯田下伊那地域の皆様のこれからの取り組みにいささかでもお役に立つことがあれば望外の喜びとするところである。

平成28年3月9日

第2版の発刊にあたって

平成28年3月に本報告書を発表したところ、私どもの予想を超える反響を得た。同年3月30日には飯田市議会に招かれ、市議会議員様全員を対象に報告書を説明するという栄誉を賜った。また同じく4月には伊那市役所において上伊那・飯伊地域選出の県議会議員様および上伊那地域の行政・経済団体の皆様に対して報告書の説明を行う機会をいただいた。

調査メンバーとして、本調査に取りかかるにあたり「調査報告書という形で地域に情報発信することで地域の中に化学変化を起こすことができたら…」という想いがあった。実際に発信すると、池に1個、石が投げ込まれて波紋が生じ周りに広がるように反応が次々出てくる…。化学反応が起き始めた…。そのような感覚を持ちながら今日に至っている。

この度、当初作成の報告書は在庫が尽き、増刷という正に望外の喜びとなった。発刊にあたっては誤字脱字の訂正、図版の差し替えを行っているが、あくまで平成28年3月時点での、リニア調査から得られた知見とそれに対する見解また当金庫が取り組んでいく事項、という内容は変えていない。

この間、リニア中央新幹線建設および関連事業は徐々にその詳細が明らかになりつつあるが、対象地権者様には依然具体的になってこないなどの状況は続いている。地域の皆様のリニア中央新幹線開通に向けて各方面での取り組みのなかで、この報告書が今後も何かのお役に立つことを念じている。

平成28年8月31日